



主な内容

- 特集—— 医大祭2017「wish×4」
120th NEWS — 矢巾新附属病院移転に向けて、バナーフラッグの設置と盛岡駅電飾看板のリニューアルを行いました
フリーページ — すこやかスポット薬学講座No.2
「大学発の創薬への挑戦」
表紙写真：盛岡城跡公園の紅葉（2017.11.1 撮影）

医大祭「wish×4」 2017



矢巾キャンパスでは4回目となる医大祭が、10月28日(土)、29日(日)の2日間にわたり開催されました。今年度は本学創立120周年の記念すべき節目の年であると同時に、新たに看護学部が開設され、医・歯・薬・看護の医療系4学部が矢巾キャンパスに揃い、新たなスタートを迎えた中での開催となりました。

今回の医大祭のテーマは「wish×4」。これまで医・歯・薬の3学部で共に活動していた中に、新しく看護学部が仲間入りし、これから4学部の学生が医大祭を盛り上げていくという1つのwishに向かって協力していこうという思いが込められています。

2日間合計で約790名の来場者を迎えた医大祭2017「wish×4」の様子を、写真を中心にご紹介いたします。

医大祭タイムスケジュール

1日目 10月28日(土)			
10:00	大堀記念講堂	キャンパスモール	野外イベント
10:00	ゲーム大会	スタンプラリー	OPセレモニー
11:00			軽音部
12:00			軽音部
13:00			パフォーマンス
13:30		合唱部	吹奏楽サークル
14:00			イントロクイズ
15:00			IFMSAイベント
16:00			
17:00	Mr.&Ms		
18:00			
19:00			

2日目 10月29日(日)			
09:00	大堀記念講堂	キャンパスモール	野外イベント
09:00		スタンプラリー	大声選手権
10:00			仮装大会
11:00			軽音部
12:00			軽音部
13:00			軽音部
13:15			さんさ踊り部
14:00			D-CONNECT
14:30	ゲストアーティストライブ		バトントワリング
15:00			パフォーマンス
16:00			ピンゴ大会
17:00			

※医大祭パンフレットから抜粋。29日(日)は雨天のため、野外イベントなどのスケジュールに変更がありました。

28日(土)フォトアルバム



キャンパスモール



カフェ (クラシックギター部)



ゲーム大会 in 大堀記念講堂



写真展 (写真部)



ミニコンサート (合唱部)



ジャグリング・バルーン体験 (パフォーマンス同好会)



Mr&Ms コンテスト



駐車場の模擬店ブース

29日📷-フォトアルバム



駐車場の模擬店ブース（あいにくの雨模様）



模擬店や来場者で賑わう食堂



バトントワリング同好会の発表



仮装大会



学術展示



SALT DE チャレンジ（薬学研究会）



囲碁将棋体験（囲碁・将棋部）



作品展（美術部）



医大祭の目玉イベント「BiSH」のゲストライブには、雨にも関わらず整理券を求める長蛇の列ができ、大盛況のライブとなりました。

(左写真は医大祭パンフレットから抜粋)



BiSHのグッズ販売

医大祭を振り返って

医大祭実行委員長 医学部3年 嶋田 拓明

本年度の医大祭は、岩手医科大学創立120周年、看護学部新設という記念すべき節目の年に行われることもあり、また、自分たちは前回開催された医大祭を知らない世代であるため、医大祭とはどのようなものなのかイメージを持ってないまま、文字通りゼロからのスタートとなったため不安だらけの中で準備を進めてまいりました。

準備期間の段階では、毎日の講義や研究室配属などの合間に時間を作って集まり作業をしていたため、思ったように準備が進まず、医大祭開催直前まで、バタバタしてしまったりしたこともありましたが、メンバー同士で時には意見を衝突させながらも前回の医大祭実行委員の先輩方をはじめ、事務の方々や先生方、地域の皆様の温かいご支援によってどうにか医大祭開催までこぎつけることが出来ました。

今回の医大祭は、前回の先輩方が作り上げた医大祭を踏まえながらも、ミスコンで予選を行ったり、ゲーム大会を企画したりするなど、自分たちのオリジナリティが出るように企画し、結果前回よりも盛り上がる文化祭になったのではないかと考えております。

今回の反省点をきちんと後輩に伝え、次回の医大祭では今回よりもさらにもりあがる医大祭となるよう協力していこうと思います。



オープニングセレモニーで挨拶をする嶋田さん

～あとがき～

医大祭は2～3年に一度の開催であるため、岩手医科大学の医大祭をイメージできない中、準備をしてきた実行委員長の嶋田さんを始め実行委員のみなさんは大変なご苦労があったと思います。そのような状況の中で開催された医大祭2017「wish×4」は、雨天の影響もある中で無事に終えることができたのは、今回の医大祭のテーマにあるように、医・歯・薬・看護の学生が気持ちを一つにして協力し合えたことにあると思います。

本学創立120周年の本年は「更なる発展元年」と位置付けられ、本学にとっても医大祭にとっても新たなスタートラインに立つ節目の年となりました。今回の医大祭を契機とし、本学の教職員、学生が一丸となって更なる発展へと取り組んでいく様子を大学報でもお伝えしていきたいと思っております。

最後に、今回の特集記事掲載にあたり、実行委員長の嶋田さんや担当事務局の学事総務課に多大なご協力を頂き、誠にありがとうございました。

(大学報編集委員会事務局)

附属花巻温泉病院の閉院及び医療専門学校歯科技工学科の学生募集停止について記者会見を行いました

10月24日（火）、創立60周年記念館10階会議室において、附属花巻温泉病院を平成31年3月に閉院する方針と医療専門学校歯科技工学科の学生募集停止について記者会見を行い、小川理事長、杉山病院長、一戸附属花巻温泉病院長、小豆嶋医療専門学校長が出席しました。

附属花巻温泉病院は建築後45年が経過し、建物の老朽化が著しく改修や新築する以外に方法がない状況である一方、現在の建築基準法上では同じ場所での建替えが不可能であり、他の場所への移築にも多額の資金を要することから、存続は困難であるという判断になりました。今後は徐々に入院病床を縮小していき、閉院時の入院患者さんについては、花巻市の病院などと連携し対応する予定です。また、歯科技工学科の学生募集停止については、昭和41年に岩手歯科技工士学校（現：医療専門学校）として歯科技工士の養成を開始し、これまで1,150名の卒業生を病院や診療所に輩出してきましたが、歯科技工所への集約化やデジタル化など時代的背景もあり、平成23年度以降定員割れが続き、専門学校として歯科技工士を養成する時代の終りと判断し、平成31年度入試から学生

募集を停止することになりました。

今回の閉院について小川理事長は「地域医療を後退させるのではなく、矢巾に附属病院を移転することにより道路交通網が整備され再編していくものと考えている。高度医療を集約し県民に提供できるよう引き続き努めていきたい」と述べました。



第50回動物慰霊祭が行われました

10月26日（木）、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、第50回動物慰霊祭が執り行われ、教職員約80名のほか、医・歯・薬学部の学生約300名が参列しました。

式では、昨年度実験に供された動物に対する黙祷の後、祖父江学長並びに医学部3年の鈴木美帆さん（写真）から慰霊の言葉が捧げられました。

続いて、参列者による献花が行われ、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



第60回岩手恵眼会総会が行われました

10月28日（土）、歯学部4階講堂において、岩手医科大学眼球銀行登録者の会である第60回岩手恵眼会総会が行われ、岩手恵眼会の明戸均 会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の祖父江憲治 学長ら約140名が出席しました。

総会では、献眼物故者に黙祷を捧げたほか、救急・災害・総合医学講座災害医学分野の眞瀬智彦 教授による「災害時の医療活動と備え」と題された講演が行われました。



平成29年度教育プログラム 認定講習会が行われました

平成29年度教育プログラム認定講習会「医療機器、医薬品の安全使用のための講習会」が、11月6日（月）から12回（録画映像による開催を含む）にわたり歯学部4階講堂で行われ、職員約1,500名が参加しました。

医療機器については、泉田拓也 主任臨床工学技士を講師に、新規購入機器における講習会の必要性や医療機器使用に係る注意事項について具体例を挙げて説明がありました。また、医薬品については、佐藤文彦 副薬剤部長を講師に、麻薬に関する事例や薬剤の取り違えについて、毒薬の管理徹底など当院における医療安全通知に基づき説明があり、医薬品の安全使用のための業務手順書を活用し、これからも安全かつ適正な使用に努めて頂きたいとの話がありました。



ボイラー安全祈願祭が行われました

11月9日（木）、西病棟地下1階ボイラー室において、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清祓の後、本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

このボイラー安全祈願祭は、鞆（ふいご）を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日に鍛冶湯を清掃し、火の神に感謝する習わしがあったことから、ボイラーデー（旧称：汽缶祭）にちなんで毎年行われているものです。

なお、本学のボイラーデースローガンは「みんなで守ろう『職場の安全』・みんなでつくろう『安全文化』」です。



120th
NEWS

矢巾新附属病院移転に向けて、バナーフラッグの設置と 盛岡駅電飾看板のリニューアルを行いました

創立120周年及び矢巾新附属病院移転に伴う地域住民への広報活動の一環として、昨年11月に矢幅駅前ロータリー付近の街路灯7本にバナーフラッグを設置したところですが、本年10月に矢幅駅東口から国道4号線矢巾口までの県道207号矢巾停車場線沿い71箇所の電柱にバナーフラッグを設置しました。（バナーフラッグは表裏デザインが異なります。右下写真をご参照ください。）

また同月、盛岡駅南側階段の電飾看板広告に新附属病院イメージパースを掲載しリニューアルしました。今後も、矢巾新附属病院移転に向けた広報活動を継続して取り組んでいきます。



盛岡駅電飾看板



矢巾キャンパス沿いのバナーフラッグ



赤松 順子 歯科衛生士長と村上 龍也 中央放射線部副技師長が 岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました

本学附属病院歯科衛生部の赤松 順子さん（左）と 中央放射線部の村上 龍也さん（右）は、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成29年度の岩手県知事表彰（保健医療功労）を受賞しました。

赤松さんは、36年の永きにわたり歯科衛生士業務に精励し、岩手県の歯科保健医療に貢献されたほか、歯科医療センターにおいて口腔ケア外来の立ち上げを意欲的に推進するなど、歯科医療センターの発展に大きく貢献されました。また、院外研修会への参加や研究発表等を積極的に推奨し、歯科衛生部全体の資質の向上を図るとともに多職種の研修講師も務めるなど、後進の教育・育成に尽力されました。

村上さんは、高度先進医療を使命とする大学病院の中央放射線部において運営をマネジメントするとともに、患者サービスの向上と人材育成、研究指導に尽力し、岩手県の保健医療発展に大きく貢献されました。また、岩手県診療放射線技師会の要職を歴任され、県内の診療放射線技師の知識と技術の向上に貢献されました。



お知らせ

標的型攻撃メールに関する注意喚起について

近年、組織における機密情報や個人情報を狙ったサイバー攻撃事件が増加しており、中でも^{*}標的型攻撃メールは、情報漏洩などの被害の発生原因となっています。職員の皆様には、下記のとおり情報セキュリティ対策を実施下さいますよう、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

^{*}標的型攻撃メール…対象の組織から重要な情報を盗むことを目的として、組織の担当者が業務に関係するメールだと信じて開封してしまうよう巧妙に作り込まれたウイルス付きのメール

1. ウイルス感染の危険性を減らす対策について

日頃から情報セキュリティ対策を実施することにより、ウイルス感染の危険性を減らすことができます。

- ① OS、各種ソフトウェアを最新状態に保つ（WindowsUpdate 適用等）
- ② ウイルス対策ソフトを導入し、最新のパターンファイルを取得する
※但し、ウイルス対策ソフトは新種ウイルスに対応できないこともあるため過信しない
- ③ 重要な情報はパスワード保護や暗号化を行う

2. 不審なメールに気付いた場合

標的型攻撃メールは、標的とする組織の複数のメールアドレスに届くことが多いため、組織内で情報共有することが重要です。不審なメールに気付いた場合は、総合情報センターにご連絡をお願いいたします。

3. 不審な添付ファイルを開いた場合

ウイルスの活動を防止するため LAN ケーブルを外し、総合情報センターにご連絡をお願いいたします。

詳しくは、平成29年10月24日付学内通知をご確認頂き、不明な点は総合情報センター（内線：3720、3721）までご連絡をお願いいたします。

シリーズ 職場めぐり

No.117

皮膚科学講座

皮膚科学講座は昭和5年に皮膚泌尿器科学教室として開講し、昭和41年に皮膚科学教室と泌尿器学教室が分離し半世紀が経ちました。現在は総勢18名で診療・教育・研究に日々邁進しております。

診療面では岩手県のみならず近県の皮膚科医療の中核を担い、あらゆる皮膚疾患に対応しています。具体的にはアトピー性皮膚炎を代表とするアレルギー疾患、膠原病の皮膚病変、天疱瘡や類天疱瘡などの水疱症や乾癬を含む角化症、脱毛症、血管腫や色素性病変、良性・悪性皮膚腫瘍、感染症、フットケア・美容・抗加齢医療があります。

教育は主に医学部4年生の講義と研究室配属や歯学部5年生の講義、5年生の臨床実習と6年生の高度臨床実習を担当しています。

研究活動は伝統ある皮膚悪性腫瘍・乾癬治療と遠隔医療・地域医療の更なる充実とアレルギー・免疫分野の拡充を目指しています。

『皮膚は内臓の鏡』と言われる。皮膚に関し気になる事がございましたらお気軽にご相談下さい。

(講師 森 志朋)



共通基盤看護学講座

本講座は、「看護の統合と実践」「基礎看護学」「成人看護学」の3領域で構成され、『いかなる場でも共通して求められる看護専門職としての基盤(知識・技術・態度)』を構築するための教育・研究活動を行っています。今年度は、教授2名、特任教授1名、講師1名、特任講師1名、助教3名の計8名が着任し、第1期生の教育に臨みました。10月には病院や介護施設での初めての臨床実習も終え、入学後わずか半年で現場に赴き、実際の患者さんに接する難しさを知るとともに看護の道を選んだ初心を思い起こし、後期の授業にこれまで以上に真摯に望む学生さんたちの姿も見られるようになりました。

来年度は、特任准教授1名、特任講師1名、助教2名、助手1名が加わり、総勢13名のオールキャストが揃います。プロとして信頼される看護職を養成するために、領域の壁

を取り払い、講座一丸となって教育・研究活動に取り組んで参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。

(特任教授 秋山 智弥)



施設課

施設課は課長以下、技術員11名、技能員2名、事務員1名、派遣職員5名で構成され、各人が資格を有し広範囲に点在する大学施設の維持管理・修繕や、他課からの依頼による改修工事計画・工事管理を始め現在進められている矢中新病院建築の参画など多岐にわたっております。

本学は増改築を繰返し発展してきましたが、大正15年竣工の1号館を始め昭和56年以前の旧耐震施設が大半を占め、昨今の生活環境の変化、教育・医療の進歩に対応しきれない部分がある中、様々な条件のもと迅速な対応ができるよう心掛けております。

今後も設備の長寿命化・効率的な運転を行いながら、竣工後10年となる矢中キャンパスの適時修繕、病院移転及び内丸メディカルセンター整備を考慮し修繕を進めてまいります。

学生さん、患者さん、職員を始め施設利用の皆様が、

安全で安心して使用できるよう努めてまいりますので、引き続き関係各位のご支援ご協力をお願いいたします。

(係長 高橋 哲也)



理事会報告（9月定例－9月25日開催）

1. 附属病院移転に係る資金借入について
2. 岩手医科大学医療専門学校歯科技工学科の運営について
3. 平成30年度事業計画方針について
4. 平成30年度予算編成方針について
5. 教員の人事について

医学部内科学講座血液腫瘍内科分野 教授
石田 高司（現 名古屋市立大学大学院医学研究科共同研究教育センター（輸血部）准教授）
（発令年月日 割愛の状況による）

医学部内科学講座糖尿病・代謝内科分野 准教授
高橋 義彦（前 同分野 講師）

医学部内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野 准教授
田中 文隆（前 同分野 講師）

医学部内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野 特任准教授
安孫子明彦（前 同分野 講師）
（発令年月日 平成29年10月1日付）

6. 職員の人事について

企画部リエゾンセンター事務室長
藤原 友昭（前 学務部研究助成課長補佐）
（発令年月日 平成29年10月1日付）

7. 臨時職員就業規則の一部改正について
8. 店舗棟の建築計画及び新病院5階の設計変更について
9. テナント棟（健康プラザ棟）の整備に係る事業者の選定について



エフエム岩手 ラジオ番組 「岩手医科大学 ～いのちから～」

2017年12月の放送予定（毎週日曜9:30～9:55）

放送日	テーマ	出演		
12月3日（日）	放射線の専門家！診療放射線技師	中央放射線部	診療放射線技師長	永峰 正幸
12月10日（日）	言語聴覚室の取組み	言語聴覚室	言語聴覚士	小野 二美
12月17日（日）	冬を健康に乗り切るための食事法	栄養部	主任栄養士	俵 万里子
12月24日（日）	インフルエンザウイルスを知ろう	微生物学講座感染症学・免疫学分野	教授	村木 靖
12月31日（日）	看護の専門性と魅力について	共通基盤看護学講座	特任教授	秋山 智弥

- 放送内容は都合により変更となる場合があります。
- 過去放送分は、エフエム岩手ホームページ（<http://blog.fmii.co.jp/inochikara/>）でお聴きいただけます。
- 放送に関するお問い合わせは、企画調整課（内線：7023）までご連絡ください。



今回ご紹介するのは高松の池です。池の景色を楽しみながら1周約1.8キロの周回コースになります。周辺は高松公園として整備されていて、トイレや水道もある安心のコースです。最近駐輪場と駐車場がきれいに整備されました。今の寒い時期は公園で憩う人も少なくなりますが、かわりに多くの白鳥たちが飛来して賑やかな感じになっています。

スタート地点は池の南側の広場。ストレッチで体をよくほぐしてからスタートしましょう。反時計回りに走るとスタート直後に池を挟んで岩手山が眺められ、天気の良い日はテンションが上がります。コースは木々の間を走る、とても気持ちのいい道です。夏場は日よけにもなるし、天気の良い日は木漏れ日がきれいです。ここはジョギングや

ウォーキングの人気スポットなのですが、ほとんどの部分に歩道がないので、車には十分気を付けてください。

コース中にはところどころに東屋やベンチがあり、好きなタイミングで休憩できます。池を眺めながら、疲れた体を休めるのはとても気持ちいいです。高校駅伝の名門、盛岡誠桜高校(旧盛岡女子高校)の前を過ぎれば、ゴールまであと一息です。駅伝の選手たちもこのコースを走っているのですが、走るフォームがとてもきれいでついつい見とれてしまいます。池にはスワンボート乗り場もありますが、スワンボートは冬眠に入っているようでした。春が待ち遠しいですね。でもその季節には本物の白鳥が旅立ってしまうから、ちょっと寂しいかな。

さて、今日は何周走りましょうか？



所々に休憩スポット



冬眠中のスワンボート



木漏れ日の中を走ります



スタート地点はいい景色



木々の間の快適なコース

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤 真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田 由希子	佐藤 侑子
佐藤 仁	武藤 千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

本号の表紙は、紅葉と石垣のコントラストが美しい盛岡城跡公園です。盛岡城跡公園にはイロハモジジなど400本以上の木々があり、秋になると私たちを楽しませてくれています。

特集では、医大祭での模擬店やイベントの様子をお伝えしています。特に野外イベントは、あいにくの雨天のため急遽屋内ステージに変更するなど、実行委員の皆さんが臨機応変に対応し大盛況に終えることができたようです。今回の経験は、これからの医療現場で活かされていくことでしょう。

(編集委員 佐藤 真結美)

岩手医科大学報 第494号

発行年月日 平成29年11月30日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット薬学講座

構造生物薬学講座 教授 野中 孝昌



大学発の創薬への挑戦

X線は電子で散乱するため、結晶構造解析を行えば、結晶内の電子密度分布が分かります。電子密度分布が分かるということは、原子核を取り巻く電子雲が“見える”ということです。電子雲が見えれば、その中心付近に原子核がありますから、結局、X線結晶構造解析によって、結晶内の分子の立体構造が、原子レベルの解像度で“見える”ということになります。

長い間、創薬は偶然に頼っていましたが、ペニシリンの発見以降、近代的創薬の概念が確立されてきました。ペニシリンの立体構造を決定したホジキンがノーベル化学賞を受賞したことから分かるように、構造情報を提供するX線結晶構造解析の役割は創薬において非常に重要です。ノイラミニダーゼとN-アセチルノイラミン酸の複合体の結晶構造を基にして、タミフル（オセルタミビル）が開発されました。このように、薬物の元になる化合物とその標的タンパク質の構造を基にして薬物設計を行う手法をStructure-Based Drug Design (SBDD)と言います。

多剤耐性菌や歯周病菌の多くは、糖の代わり

にペプチドをエネルギー源として利用するグラム陰性糖非発酵性病原菌です。これらの細菌は、外膜と内膜の間にあるペリプラズムに、ペプチドからジペプチドを産生するジペプチジルアミノペプチダーゼ（DPP）群を有しています。内膜は、アミノ酸単体よりもジペプチドを選択的に透過し、DPP群の阻害により病原菌の生育・増殖が低下することから、DPP群は新規抗菌薬の標的酵素として有望であると考えられています。現在、X線結晶構造解析で明らかにしたDPP群の酵素とジペプチドの複合体（図1）を基にして、SBDDによる抗菌薬の開発を目指しています。

代表的な歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* は、歯周組織への為害作用があり歯周病に起因する口臭の原因物質のひとつとしても知られている酪酸を放出します。この細菌の酪酸合成に関与するスクシニルCoA還元酵素遺伝子の欠損株は、野生株に比べ、顕著に生育速度が低下します。したがって、その産物であるスクシニルCoA還元酵素（図2）を阻害できれば、新規作用機序の抗菌薬創出につながります。

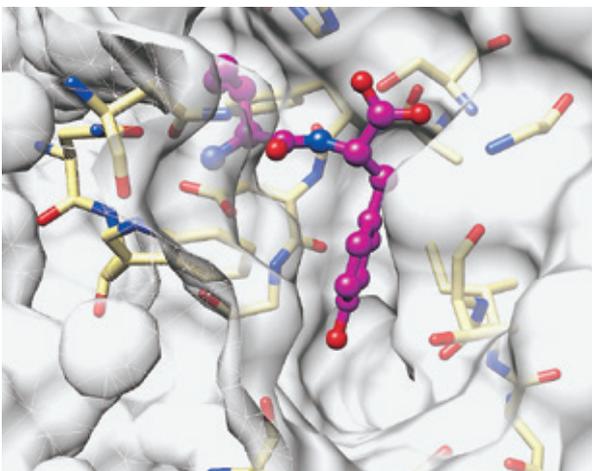


図1 DPP群の酵素に結合したジペプチド

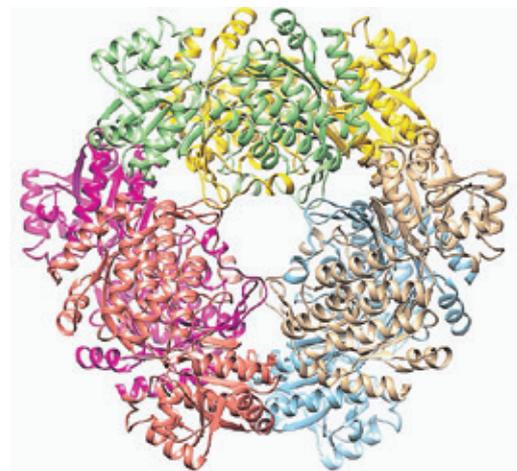


図2 スクシニル CoA 還元酵素の六量体構造